

授業名称：GISを活用した評価マップの作成

シラバス

概要：

自治体におけるGISは、これまでは地図業務に関わる部局での利用が中心であった。しかし、統合型GISが導入され、自治体が所有する様々な地理・空間情報が一元的に利用可能となると、実態把握を踏まえた施策の立案・評価や、住民サービスのツールとしてのGISの利活用が求められるようになってきた。そこで、本講義では、ロールプレイングのGIS演習を通して、GISを用いた政策の立案・評価のプロセスや住民の合意形成方法を教授する。

学習目標：

本授業では、GISの基本的な分析操作であるカルトグラフィック・モデリングを用いて、いくつかの政策課題などを対象に、GISの操作を通して、GISがどのように政策評価に用いられるのかを理解することを目標とする。

- ・この授業を通して、GISの基本操作と地図を通して現象をとらえる技術を習得する。
- ・この授業を通して、評価を地図で表現する方法を習得する。
- ・この授業を通して、GISがいかに実態把握を踏まえた施策の立案・評価に用いられるかを習得する。

受講対象：

地方公共団体等において、GISに関連する業務に従事している者、もしくはGISに関する基礎知識は有しており、今後、専門性を高めたい意向がある者等。なお、受講者に求めるスキルに関しては、ArcGISを利用したことがあることが望ましい。また、発表ではパワーポイントを用いる。

- (1) 地方公共団体の情報部門の人材
- (2) 地方公共団体の情報部門以外に所属し、GISの活用が期待される業務に従事する人材
- (3) その他、地域行政に関連する組織に所属し、GISの活用が期待される業務に従事する人材

教育手法：

数名のチームを編成し、京都市域を対象に様々な視点からの評価マップを作成してもらう。その際、標準的なGISソフトArcGISを用いて行われる。教室条件としては、ArcGISが使えること。

担当講師及び講師の必要要件：

各種の地理空間データの特性を理解し、GISを用いた基礎的解析手法（カルトグラフィック・モデリング空間分析）と地図表現に習熟していること。

参考資料：

- (1) 矢野桂司（1999）『地理情報システムの世界』ニュートンプレス
- (2) スタイニッツ、C. 編、矢野桂司・中谷友樹訳（1999）『地理情報システムを用いた生物多様性と景観プランニング』地人書房
- (3) ジオマチックス研究会編（2002）『GIS実習マニュアルArcView版 改訂新版』日本測量協会

キーワード：

カルトグラフィック・モデリング、評価マップ、政策立案、ロールプレイング